eSATAブラケットの取り付け方法 （パソコン内部のシリアルATAポートに接続する場合のみ）

以下は、付属のeSATAブラケットをパソコンに取り付け、パソコン内部のシリアルATAコネクタをeSATAコネクタに変換する手順の説明です。
本製品をUSB接続する場合や、パソコンのeSATAコネクタに接続する場合、弊社製eSATAインターフェースに接続する場合は、以下の作業は必要ありません。

注意

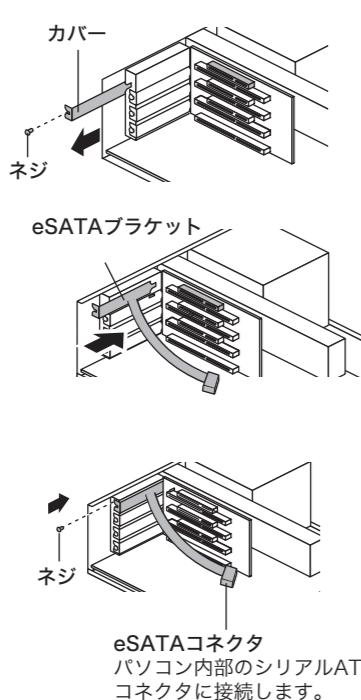
- **作業を始める前に、パソコンと周辺機器の電源スイッチをすべてOFFにし、コンセントから電源を抜いてください。**
- **パソコンの電源スイッチをOFFにした直後は、パソコン内部の部品に触らないでください。** 特にCPUやVGAチップは高温になっており、やけどをするおそれがあります。電源スイッチをOFFにして30分以上経ってから作業することをおすすめします。
- **本製品に触る前にドアノブやアルミサッシなどの身近な金属に触れ、身体の静電気を除去してください。**
- **手順は、パソコンによって異なります、パソコン本体と周辺機器のマニュアルも必ず参照してください。**

1. パソコン→周辺機器の順に電源スイッチをOFFにし、電源ケーブルをコンセントから抜きます。
2. パソコン本体からケーブル類とカバーを取り外します。
   パソコン本体のマニュアルを参照してください。
3. 空いているPCIバススロットカバーを取り外します。
   PCIバススロットの位置は、パソコン本体のマニュアルで確認してください。
   取り外したネジは、eSATAブラケットを固定するときに使用します。紛失しないように注意してください。

4. PCIバススロットカバーを取り外した場所にeSATAブラケットを差し込みます。

5. 手順❸で取り外したネジでeSATAブラケットを固定します。

6. eSATAブラケットのシリアルATAコネクタを、パソコン内部のシリアルATAコネクタに接続します。
   パソコン本体のマニュアルを参照してください。
7. パソコン本体にケーブル類とカバーを取り付けます。
   パソコン本体のマニュアルを参照してください。
8. 電源ケーブルをコンセントに差し込みます。

以上でeSATAブラケットの取り付けは完了です。

付属ソフトについて(WindowsXP/2000のみ)

⚠注意 Windows Server 2003やMacintoshをお使いの場合、付属ソフトを使用できません。付属ソフトは、WindowsXP/2000用です。

本製品にはWindowsXP/2000用の便利なソフトが付属しています。ソフトの詳細は、画面で見るマニュアル「付属ソフトの概要/お問合せ」を参照してください。「付属ソフトの概要/お問合せ」は、「画面で見るマニュアルについて」の手順で表示できます。
ソフトによっては、インストール時にプロダクトキーが必要となります。プロダクトキーは、ユーティリティCDに記載されていますので、ソフトのインストールを行う前に以下のスペースに記載してください。

プロダクトキー記入欄
ユーティリティCDに記載されているプロダクトキーをここに書き写してください。

画面で見るマニュアルについて

画面で見るマニュアルには、本製品の取り外しかたやQ&A、付属ソフトの概要など本紙に記載されていないことが記載されています。本紙とあわせて必ずお読みください。画面で見るマニュアルは、以下の手順で表示できます。

■Windows

画面で見るマニュアルは、以下の方法で表示できます。
また、「マニュアル[HD-QSU2].pdf」、「付属ソフトの概要.pdf」、「BUFFALOハードディスクQ&A」の３つの画面で見るマニュアルは、ユーティリティCDをパソコンにセットすると自動的にデスクトップにコピーされます。コピーが完了したら、表示したいマニュアルをダブルクリックしても表示できます。

1. ユーティリティCDをパソコンにセットします。
   ※簡単セットアップが起動します。起動しないときは、ユーティリティCD内の「EasySetup.exe」をダブルクリックしてください。
2. ［マニュアルを見る］を選択し、[開始]をクリックします。
3. 表示したいマニュアルを選択し、[開始]をクリックします。
   ※画面で見るマニュアル（PDFファイル）を読むには、Acrobat ReaderまたはAdobe Readerがインストールされている必要があります。Acrobat Readerは、簡単セットアップからインストールできます。
   ※Acrobat ReaderまたはAdobe Readerの使いかたは、ヘルプを参照してください。
   ※画面上で見づらいときは、紙に印刷してお読みください。

■Macintosh

ユーティリティCD内の[Mac]フォルダにある「manual.pdf」を参照してください。

⚠注意 本製品の紛失・盗難等には十分ご注意ください
本製品の紛失・盗難・横領・詐取等により、第三者に個人情報が漏えいする恐れがあります。個人情報が第三者に漏えいしたために損害が生じた場合、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

バックアップをお勧めします

万が一、本製品が故障したときに備え、バックアップを作成することをお勧めします。バックアップとは、他のハードディスクなどに本製品のデータをコピーしておくことです。詳しくは、画面で見るマニュアル「HD-QSU2/R5シリーズ ユーザーズマニュアル」を参照してください。
なお、本製品をRAID5モードやRAID1モードでお使いの場合は、本製品内蔵のハードディスクが1台故障してもデータを復旧できますが、2台以上同時に故障した場合はデータを復旧できません。そのため、大切なデータは、RAID5モードやRAID１モードでお使いの場合であっても他のハードディスクなどにバックアップを作成することをお勧めします。

ハードディスクの破棄・譲渡・交換・修理時の注意

「削除」や「フォーマット」したハードディスク上のデータは、完全には消去されていません。お客様が、廃棄・譲渡・交換・修理等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。
万一、　お客様の個人データが漏洩しトラブルが発生したとしましても、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
付属のAcronis DriveCleanserを使用してデータを完全に消去するか、専門業者に完全消去作業を依頼することをおすすめします。
詳しくは、http://buffalo.melcoinc.co.jp/support_s/hddata.html をご覧ください。
※ソフトウェアを削除することなくハードディスクやパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約違反になることがありますので、ご注意ください。

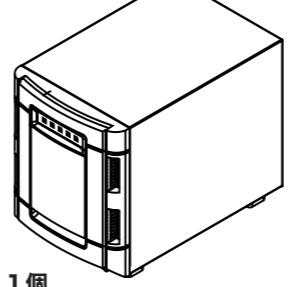
2006年10月30日 初版発行　発行 株式会社バッファロー

HD-QSU2/R5シリーズ マニュアル はじめにお読みください

このたびは、本製品をご利用いただき、誠にありがとうございます。本製品を正しく使用するために、はじめにこのマニュアルをお読みください。お読みになった後は、大切に保管してください。

パッケージの内容

万が一、不足しているものがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。なお、製品形状はイラストと異なる場合があります。

□ハードディスク(本製品)......................1台

□eSATAブラケット...............1個
パソコン内部のシリアルATAコネクタをeSATAコネクタへ変換するブラケットです。お使いのパソコンにeSATAコネクタがない場合にお使いください。

□ユーティリティCD................1枚
□USBケーブル.................1本
□eSATAケーブル.................1本
□電源ケーブル.................1本
□3ピン-2ピン変換コネクタ.................1個
☑はじめにお読みください（本紙）...1枚
□安全にお使いいただくために必ずお守りください...1枚

※本製品を梱包している箱には、保証書と本製品の修理についての条件を定めた約款が印刷されています。本製品の修理をご依頼いただく場合に必要となりますので、大切に保管してください。
※追加情報が別紙で添付されている場合は、必ず参照してください。

セットアップ

ステップ1 セットアップ前に確認する

本製品には、以下の制限事項があります。本製品のセットアップを行う前にご確認ください。

- **eSATA接続では、RAIDを設定できません。RAIDを設定する場合は、USBケーブルで接続してください。**
- Macintoshをお使いの場合は、USBケーブルで接続してください。eSATA接続は、Windowsのみ対応です。
- パソコン内部のシリアルATAポートに接続する場合は、セットアップを行う前に、「eSATAブラケットの取り付け方法」（P4）を参照してeSATAブラケットを取り付けてください。
- 本製品にOSをインストールする場合は、画面で見るマニュアル「HD-QSU2/R5シリーズ ユーザーズマニュアル」（P4）を参照してセットアップしてください（eSATA接続のみの対応です）。以下の手順は、増設用ハードディスクとして使用するときの手順です。
- 3P-2P変換コネクタを使ってACコンセントに接続する場合は、感電防止のため、アース線は必ず接地してください。アース線は電源コードをつなぐ前に接続し、電源コードを抜いてから外してください。順序を守らないと感電の原因となります。アース線がコンセントや他の電極に接触しないようにしてください。

ステップ2 パソコンに接続して、RAID設定ユーティリティをインストールする

お使いのOSによって手順が異なります。以下の手順で行ってください。

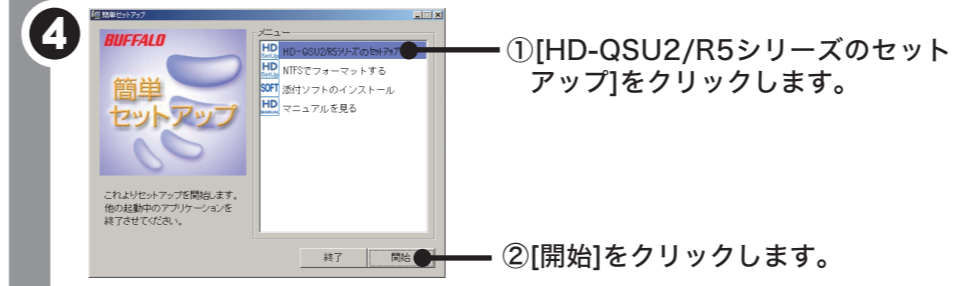
Windows

セットアッププログラム「簡単セットアップ」に従って作業を行います。

1. パソコンに接続している周辺機器（本製品を除く）の電源スイッチをすべてONにします。その後、パソコン本体の電源スイッチをONにします。
2. 起動中のアプリケーションを全て終了します。
3. 付属のユーティリティCDをパソコンにセットします。
   簡単セットアップ（❹の画面）が起動します。簡単セットアップが起動しない場合は、ユーティリティCD内の「EasySetup.exe」をダブルクリックしてください。

メモ
- パソコンにCD-ROMドライブがない場合は、弊社ホームページ（buffalo.jp）からセットアップ用ユーティリティをダウンロードできます。
- ユーティリティCDをパソコンにセットすると、画面で見るマニュアル（PDFファイル）がデスクトップにコピーされます。

4.

①[HD-QSU2/R5シリーズのセットアップ]をクリックします。
②[開始]をクリックします。

以降は、画面の指示に従ってセットアップを行ってください。

メモ
- パソコンのコネクタに空きがないときは、使用していない機器を取り外してください。簡単セットアップを起動した後は、付属のユーティリティCDを入れたCD-ROMドライブ（外付け）も取り外せます　（取り外しても簡単セットアップは動作します）　。
- 「次の新しいドライバを検索しています　（以下略）」　というメッセージが表示されたときは、　［キャンセル］　をクリックして作業を続行してください。再起動後に、自動的にドライバがインストールされます。

以上でステップ2は完了です。

Macintosh

以下の手順でパソコンに接続し、RAID設定ユーティリティをインストールします。

1. 周辺機器（本製品を除く）→パソコンの順に電源スイッチをONにします。
2. 電源ケーブルを本製品とコンセントに接続します。
3. 電源スイッチをONにします。
4. USBケーブルを本製品とパソコンに接続します。

注意
本製品を接続すると「セットしたディスクにMac OS Xで読み込めないボリュームが含まれています」という内容の警告メッセージ（日本語と英語、または日本語のみ）が表示されることがあります。日本語のメッセージでは［キャンセル］、英語のメッセージでは［Cancel］をクリックしてください。

5. ユーティリティCDの[Mac]フォルダにある（RaidSetting）をデスクトップにコピーします。

メモ
ディスクトップにコピーした（RaidSetting）は、RAID設定ユーティリティの起動ファイルです。このファイルをダブルクリックすることで、RAID設定の画面を表示できます（ステップ4を参照）。

以上でステップ2は完了です。

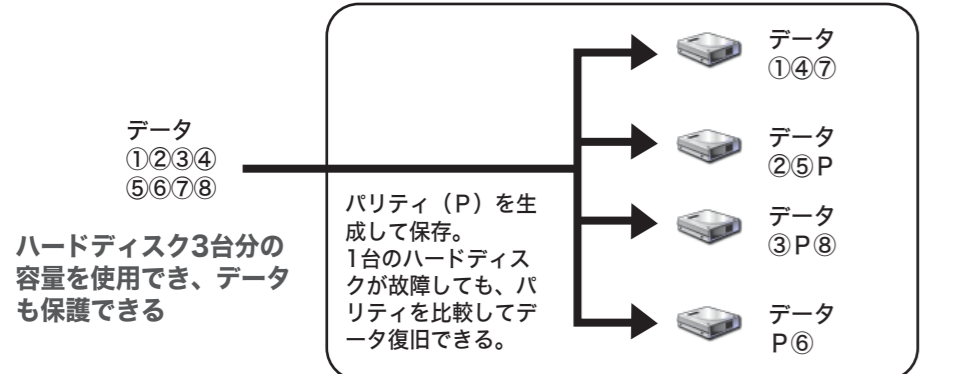
- **RAIDの設定をする場合（USB接続のみ）**
  P2 ステップ3 構築するRAIDを決める へ進む
- **出荷時設定のままお使いになる場合**
  P3 ステップ5 正しく動作しているか確認する へ進む

ステップ3 構築するRAIDを決める

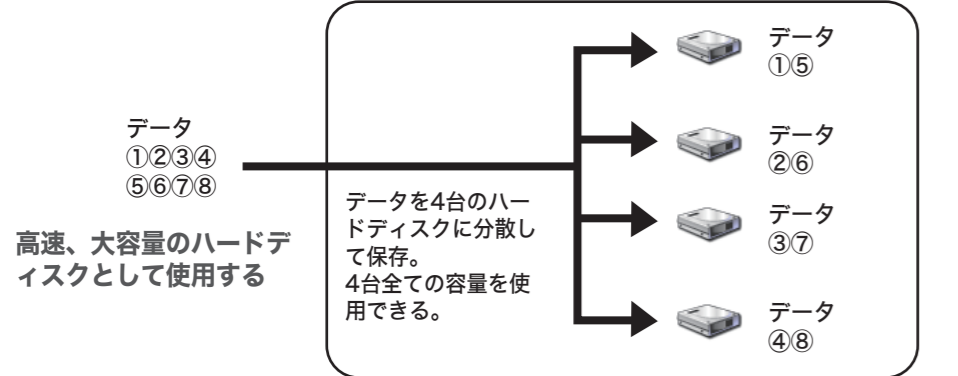
RAID(レイド)とは、複数のハードディスクを組み合わせて1台のハードディスクに見立て、大容量ハードディスクとして使用したり、故障時の復旧を容易にしたりするシステムです。本製品は、4台のハードディスクでRAIDを構築できます。ハードディスクの組み合わせかたにより、RAIDレベルが決められています。本製品が対応しているRAIDレベルは、次のとおりです。

■RAID5モード（出荷時設定/高速アクセスでき、データを安全に保存したい）

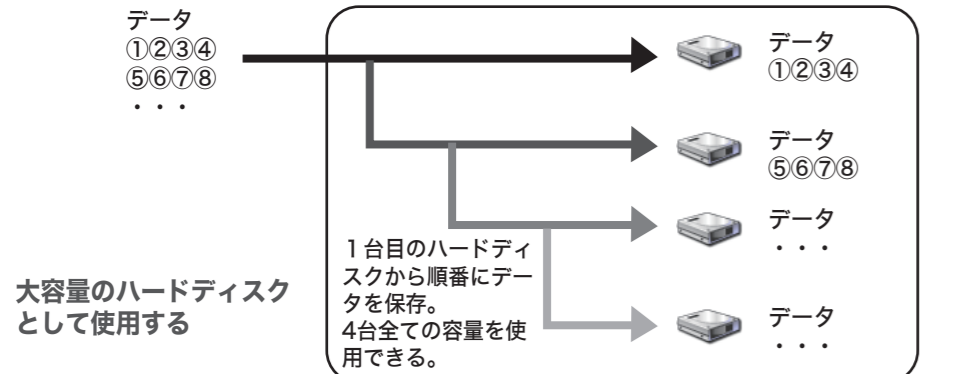
データからパリティ（誤り訂正符号）を生成し、データとともに複数のハードディスクに分散して記録します。どれか1つハードディスクが破損しても、ハードディスク交換により周りのデータとのパリティを比較し、 データ復旧が可能です。OS上からは、3台分のハードディスクの容量しか認識されません。ハードディスクへのアクセス速度は、1台だけ使っている場合よりも高速です。

●ハードディスクの構成例
HD-Q1.0TSU2/R5の場合：750GB（250GB×3）のハードディスクとして認識します

■RAID0モード（高速な大容量ハードディスクとして使用する）

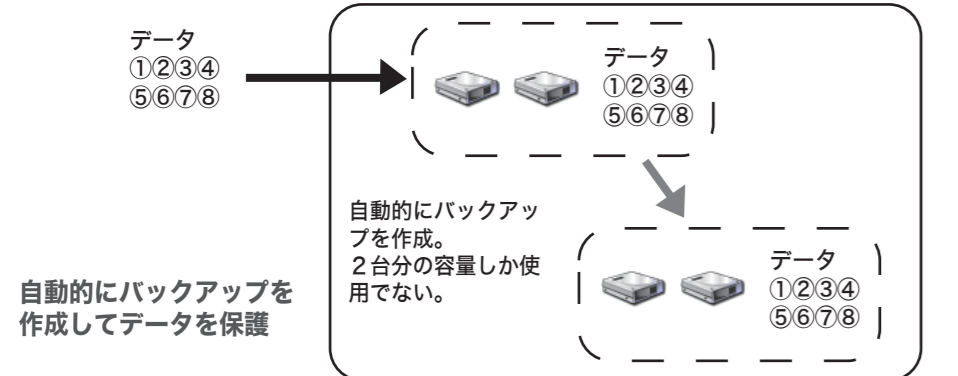
4台のハードディスクを1台の大容量ハードディスクとして使う方法です。データを分散して4台のハードディスクに同時記録するため、アクセス速度が向上します。OSからは4台のハードディスクの容量を足した1台の大容量ハードディスクとして認識されます。RAID0モードでは、データを保護するしくみがありません。そのため、ハードディスクが1台でも故障したら、すべてのデータが読み出せなくなります。

●ハードディスクの構成例
HD-Q1.0TSU2/R5の場合：1TB(250GB×4）のハードディスクとして認識します

■スパニングモード（大容量ハードディスクとして使用する）

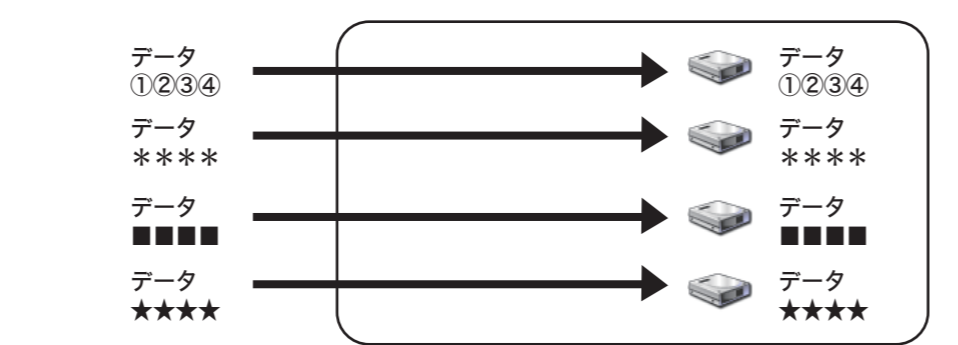
4台のハードディスクを1台の大容量ハードディスクとして使う方法です。OSからは4台のハードディスクの容量を足した1台の大容量ハードディスクとして認識されます。データを分散せずに保存するため、アクセス速度は通常と変わりません。スパニングモードでは、データを保護するしくみがありません。そのため、ハードディスクが1台でも故障したら、すべてのデータが読み出せなくなります。

●ハードディスクの構成例
HD-Q1.0TSU2/R5の場合：1TB(250GB×4）のハードディスクとして認識します

■RAID1モード（自動的にバックアップを作成し、データを安全に保存したい）

バックアップ用のハードディスクに保存するデータのバックアップを作成することにより、データを保護します。１台のハードディスクが故障しても、バックアップ用のハードディスクにあるデータを読み出すことができるため、そのまま使い続けることができます。また、故障したハードディスクを新しいハードディスクに交換すれば、データを復旧できます。OS上からは、2台分のハードディスクの容量しか認識されません。ハードディスクへのアクセス速度は、1台だけ使っている場合とほぼ同じです。

●ハードディスクの構成例
HD-Q1.0TSU2/R5の場合：500GB（250GB×2）のハードディスクとして認識します

■通常モード（４台のハードディスクとして使用する）

RAIDを構築しないで使用します。本製品は4台のハードディスクとして認識され、それぞれに違うデータを保存できます。

●ハードディスクの構成例
HD-Q1.0TSU2/R5の場合：250GBのハードディスクを4台認識します

４台のハードディスクに個別にアクセスできる

注 意
通常モードに設定した場合にeSATA接続すると、１台のハードディスクしか認識せず、全ての容量を使用できません（HD-Q1.0TSU2/R5の場合、250GBしか認識しません）。USB接続すると、４台のハードディスクを認識して、全ての容量を使用できます。

ステップ4 RAIDを構築する（USB接続のみ）

重 要
- RAIDを構築する時は、本製品一台のみを接続し、他のUSB機器は全て取り外しください。
- RAIDを構築すると、本製品に保存されていたデータが全て消去されます。RAIDの構築を行う前にバックアップを作成してください。
- 以下の手順は、Windows2000の画面を例に説明しています。画面は、お使いのOSによって異なることがあります。

1 RAID設定ユーティリティを起動します。
Windowsの場合は、[スタート]－[（すべての）プログラム]－[BUFFALO]－[HD-QSU2]－[RAID設定ユーティリティ]を選択します。
Macintoshをお使いの場合は、デスクトップにコピーした 「RaidSetting」をダブルクリックします。

2

[設定]－[ディスク構成の変更]を選択します。

メ モ
パスワードを設定している場合は、パスワードの入力画面が表示されます。パスワードを入力し、次の手順へ進んでください。

3

①構築するRAIDを選択します。
②[次へ] をクリックします。

4 フォーマットする形式を選択します（WindowsXP/2000のみ）。

①本製品をフォーマットする形式を選択します。
②[次へ] をクリックします。

注 意
- ●NTFSフォーマット（推奨）を選択することをお勧めします。FAT32フォーマットを選択した場合、4GB以上のファイルを保存できません。
- ●Windows Server 2003やMacintoshをお使いの場合、上の画面は表示されません。次の手順へ進んでください。

5 「ディスク構成を変更すると、ディスク内のデータは消去されます。よろしいですか？」と表示されたら、[はい]をクリックします。

6 「変更先ドライブの中のデータを再度確認してください。変更してよろしいですか？」と表されたら、[はい]をクリックします。
RAIDの構築が始まります。

右上へつづく

7 「設定の変更が正常に終了しました。」または、「動作モードを変更しました。」と表示されたら、［OK］をクリックします。

以上でRAIDの構築は完了です。

注 意
- ●RAID5モードやRAID1モードでRAIDを構築された場合、上の手順が完了するとRAIDの構築が始まりアクセスランプが赤色点滅します。アクセスランプが消灯するまで、本製品の電源をOFFにしないでください。RAIDの構築には、RAID５モードの場合で100GBあたり約12分（HD-Q1.0TSU2/R5の場合、約2時間）、RAID1モードの場合で100GBあたり25分（HD-Q1.0TSU2/R5の場合、約4時間）かかります。アクセスランプが消灯したら、RAIDの構築は完了です。
- ●Windows Server 2003やMacintoshをお使いの場合は、本製品をフォーマット（初期化）してください。フォーマットしないと、本製品を正常に認識でません。フォーマットの手順は、画面で見るマニュアル「HD-QSU2/R5シリーズ ユーザーズマニュアル」（P4）を参照してください。

ステップ5 正しく動作しているか確認する

以下の手順で、本製品が正常に動作しているか確認してください。

■WindowsXP/Server 2003

[スタート]−[マイ コンピュータ]の順にクリックします。マイ コンピュータの「ハードディスクドライブ」にアイコン（ HD-QSU2）が追加されていることを確認してください。

■Windows2000

デスクトップの[マイ コンピュータ]をダブルクリックします。マイ コンピュータにアイコン（ HD-QSU2）が追加されていることを確認してください。

■Macintosh

デスクトップに本製品のアイコン（ ）が追加されていることを確認してください。追加されていない場合は、本製品の電源をOFFにした後、再度ONにしてください。確認後、本製品をMac OS拡張形式で初期化してください（ステップ4で初期化された場合は、ここで初期化する必要ありません）。

重 要

Windowsをお使いの方へ
本製品をNTFS形式でフォーマットすることをお勧めします（Windows Server 2003の場合は、必ずフォーマットしてください）。出荷時状態は、FAT32形式でフォーマットされていますのでそのままお使いになれますが、4GB以上のファイルを保存することができません。下に記載の「DVD作成やキャプチャを行う方へ（Windowsのみ）」の手順で、本製品をNTFS形式でフォーマットすれば、4GB以上のファイルも保存できるようになります（RAID構築時にNTFS形式でフォーマットした場合は、すでにNTFS形式でフォーマットされています）。

Macintoshをお使いの方へ
必ず本製品をMac OS拡張形式で初期化してください（ステップ4で初期化された場合は、ここで初期化をする必要ありません）。初期化の方法は、画面で見るマニュアル「HD-QSU2/R5シリーズ ユーザーズマニュアル」（P4）を参照してください。

注 意
- ●RAIDの設定により、認識する容量は異なります（出荷時状態は、RAID５モードに設定されています）。詳しくは、「ステップ3 構築するRAIDを決める」をご覧ください。
- ●USB接続で通常モードに設定した場合、本製品のアイコンが4つ追加されます。

DVD作成やキャプチャを行う方へ（Windowsのみ）

Windowsをお使いの場合、**NTFS形式でフォーマットすることをお勧めします。**そのままお使いになることもできますが、4GB以上のファイルを保存できません。NTFS形式でフォーマットすると、4GB以上のファイルも保存できるようになります。

※本製品にデータが保存されている場合は、以下の手順でフォーマットでません。画面で見るマニュアル「HD-QSU2/R5シリーズ ユーザーズマニュアル」（P4）に記載の手順でフォーマットしてください。

※以下はWindowsXPの画面を使って説明しています。お使いのOSによって画面が異なることがあります。

1 パソコンにユーティリティCDをセットします。
「簡単セットアップ」が起動します。起動しない場合は、ユーティリティCDの「EasySetup.exe」をダブルクリックしてください。

2

①「NTFSでフォーマットする」を選択します。
②［開始］をクリックします。

以降は、画面に従ってフォーマットしてください。

- ●本製品が正常に認識されない場合は、以下のことを確認してください。
  - ・本製品の電源はONになっているか。
  - ・USBケーブルやeSATAケーブル、電源ケーブルは正しく接続されているか。
- ●本製品をパソコンから取り外すときは、画面で見るマニュアル「HD-QSU2/R5シリーズ ユーザーズマニュアル」（P4）の「本製品の取り外し」に記載の手順で行ってください。

故障かなと思ったら（ランプ・ブザーの確認）

本製品には、異常が発生した場合にブザーやアクセスランプで状態を表示する機能があります。故障かなと思ったときは、ブザーやアクセスランプの確認をしてください。

アクセスランプの状態	ブザー音	本製品の状態
―	ピー・ピー・ピー（繰り返し鳴る）	背面のファンが停止しています。本製品の電源をOFFにして、ファンにほこりがたまっていないか確認してください。ほこりを取り除いても解決しない場合は、ファンが故障している可能性があります。弊社サポートセンターへご連絡ください。
―	ピーーー（連続して鳴り続ける）	ハードディスクが非常に高温となっています。背面のファンが回転しているか確認してください。 ファンが回転していない場合は、本製品の電源をOFFにして、ファンにほこりがたまっていないか確認してください。ほこりを取り除いても解決しない場合は、ファンが故障している可能性があります。弊社サポートセンターへご連絡ください。 ファンが回転している場合は、ハードディスクが故障している可能性があります。アクセスランプを確認し、ハードディスクの状態を確認してください。なお、どのアクセスランプも赤色点灯していない場合でも、ハードディスクが高温となっています。本製品の電源をOFFにして、1時間以上待ってからお使いください。
アクセスランプのいずれかが赤色点灯	ピー（約3秒鳴って停止）	点灯したランプのハードディスクに異常があります。ハードディスクを交換してください。交換しても解決しない場合は、ハードディスクが正しく接続されているか確認してください。
アクセスランプのいずれか（複数の場合もあります）が赤色点滅	―（ピッピッピッ）	リビルド（データ修復）中です。RAID5モードやRAID1モードでハードディスクを交換した場合にこの状態となります。アクセスランプが消灯するまで（リビルドが完了するまで）電源をOFFにしないでください（リビルド完了時に、「ピッピッピッ」とブザーが鳴ります）。本製品内部でデータの移動を行っています。電源をOFFにすると、本製品が故障したり、データが破損・消失する恐れがあります。 リビルド中でもパソコンに接続して使用できますが、データ転送速度が遅くなります。リビルド時間は、RAID5モードの場合で100GBあたり約12分（HD-Q1.0TSU2/R5の場合、約2時間）、RAID1モードの場合で100GBあたり約25分（HD-Q1.0TSU2/R5の場合、約4時間）かかります（パソコンに接続していない状態での目安です）。
全てのアクセスランプが赤色点灯	ピー（約3秒鳴って停止）	本製品を認識できません。本製品をUSBで接続してRAIDを構築してください。

注 意

ハードディスクを交換される方へ
- ●ハードディスクの交換は、画面で見るマニュアル「HD-QSU2/R5シリーズ ユーザーズマニュアル」（P4）の「メンテナンス」に記載の「ハードディスクの交換」の手順で行ってください。また、画面で見るマニュアルに記載されている注意を必ずお守りください。
- ●交換するハードディスクには、弊社製HD-HQFBシリーズをお使いください。また、故障したハードディスクと同じまたはそれ以上の容量のものを使用してください。
  例：HD-Q1.0TSU2/R5の場合、HD-HQ250FB（250GB）をお使いください。

リビルド方法（RAID5/RAID1モードのみ）

RAID5モードやRAID1モードでお使いの場合、本製品に内蔵されたハードディスクが1台故障しても元の状態に復旧（リビルド）することができます。
元の状態に復旧するときは、以下の手順を行ってください。

注 意
- ●ハードディスクの交換は、画面で見るマニュアル「HD-QSU2/R5シリーズ ユーザーズマニュアル」（P4）の「メンテナンス」に記載の「ハードディスクの交換」の手順で行ってください。また、画面で見るマニュアルに記載されている注意を必ずお守りください。
- ●交換するハードディスクは、弊社製HD-HQFBシリーズをお使いください。また、故障したハードディスクと同じまたはそれ以上の容量のものを使用してください。
- ●データの復旧には、RAID5モードでは100GBあたり約12分（HD-Q1.0TSU2/R5の場合、約2時間）、RAID1モードでは100GBあたり約25分（HD-Q1.0TSU2/R5の場合、約4時間）かかります。
- ●RAID0モード、スパニングモード、通常モードでお使いの場合はデータを復旧できません。
  RAID0モードやスパニングモードの場合、1台でもハードディスクが故障すると本製品に保存した全てのデータが読み出せなくなります。通常モードの場合は、故障したハードディスクのデータが読み出せなくなります。

1 ハードディスクを交換します。
画面で見るマニュアル「HD-QSU2/R5シリーズ ユーザーズマニュアル」（P4）の「メンテナンス」に記載の「ハードディスクの交換」を参照して交換してください。

2 パソコンに接続していないことを確認し、本製品の電源をONにします。
アクセスランプが赤色に点滅し、リビルドが始まります。アクセスランプが消灯するまでお待ちください。なお、AUTO電源切替スイッチを「AUTO」にしている場合は、リビルドが完了すると自動的に本製品の電源がOFFになります。

3 アクセスランプが消灯したら、本製品をパソコンに接続します。
本製品が認識され、元と同じ状態で使用できます。

以上で完了です。